

放課後等デイサービスガイドラインに基づく自己評価（2019年度）

放課後等デイサービスの支援の質の向上を図るため、「放課後等デイサービスガイドライン」に基づき2019年10～11月に実施した自己評価の結果を下記の通り公表します。（アンケート回収率：保護者 74%、スタッフ 100%）

1. 保護者アンケートの結果

	保護者アンケートからの読み取り	改善目標・工夫している点
環境・体制整備	活動環境、職員配置・専門性について、高い評価をいただきました。	基準上配置すべき人員に加えて指導員を配置するとともに、発達支援センター全体のスタッフ間で連携しながら、より丁寧な支援につなげるよう努めています。
適切な支援の提供	全項目において「はい」が100%という高い評価をいただきました。	子どもたちの育ちを支援する場として、センターの各専門職とも連携しながら一人一人の課題を客観的に分析し、支援に活かしています。また、年齢別の集団活動、一定期間継続して取り組む活動、社会生活経験を広げる活動など、多様な活動プログラムを取り入れ、社会力を育てています。
保護者への説明責任等	高い評価をいただいておりますが、昨年度同様、苦情対応については12%程度「よくわからない」というご意見をいただきました。契約時にご説明しているものの、実際に苦情があった場合どのような対応がされるのかわからないことが原因と考えられます。	苦情対応については契約時にご説明していますが、子どもたちの支援に関わる大切な情報は通所を始めてからも必要に応じて随時伝える機会を作るようにしていきます。苦情を受け付けた場合は、解決に向けて迅速に対応します。 子ども単独または移動支援サービスによる通退所をしている子どもについては、保護者の方との日常的な情報交換が不足しがちです。行事の連絡などの機会を活用しながら日頃の様子について共有するよう心がけています。
非常時等の対応	避難訓練の実施については「はい」が100%でした。	避難訓練については年3回以上、様々な非常事態ケースを想定して実施しています。昨年度は実施の有無が分からないというご意見をいただきましたが、今年度は実施後毎月の通信で報告するようにしたため、保護者の方に周知することができました。
満足度	「事業所の支援に満足しているか」では「はい」が100%と高評価をいただきました。「お子さんは通所を楽しみにしていますか」の項目では「どちらともいえない」が12%あり、通所期間が短い場合十分に安心感が築けていないお子さんもいること、また本人の成長を促すための働きかけが必ずしも楽しい場面だけではないことによると考えます。	私たちの支援内容について高い評価をいただいた一方で、アンケートの回答が得られなかったご家庭もありました。今後も様々な機会を通じて保護者の方のご意見を伺うとともに、思いを共有するよう努めながら、支援のあり方を考えていきたいと思います。また子どもたち自身の「行きたい」「楽しい」という気持ちをより高め、成長につなげていけるよう関わっていきます。

2. 放課後等デイサービス自己評価表

		チェック項目	はい	どちらともいえない	いいえ	改善目標、工夫している点など
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切であるか	○			十分なスペースを確保し、活動内容によって室内空間の使い方も工夫しています。
	2	職員の配置数は適切であるか	○			配置基準を満たしています。その他、基準外のスタッフ配置と発達支援センター全体の職員間連携により、より丁寧な支援につなげています。
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされているか		○		トイレ・階段・更衣室は車椅子に乗ったままでの利用は難しい状況です。
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか	○			日々の活動の目標設定と振り返りは毎日スタッフ全員で行っています。事業の見直し、評価は法人全体でも行っています。
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげているか	○			日々のやりとりやアンケート等を通して保護者の意見を受け止め、業務改善に努めています。
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開しているか	○			事業所での掲示とホームページでの公開をしています。
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか	○			外部評価は行っていないが、年2回のセンター運営委員会を実施し、外部有識者より事業へのご意見をいただき、業務改善につなげています。
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保しているか	○			内部研修を行うとともに、外部研修にも積極的に参加し、専門性の向上に努めています。
適切な支援の提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか	○			年度当初に社会力チェック表等を用いて課題の分析を行うとともに、子ども、保護者の思いにも寄り添いながら個別支援計画を作成しています。
	10	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用しているか	○			発達検査や社会力チェック表、基本的生活習慣チェック表などを活用しています。
	11	活動プログラムの立案をチームで行っているか	○			スタッフ全員で行っています。
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか	○			子どもの意見も取り入れながら、月ごとの行事や活動の年間計画を立てています。また、日々集団活動や年齢別活動なども取り入れ、様々な経験を積めるようにしています。
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援しているか	○			その日のこどもたちの通所状況を見ながら、毎日目標設定をして活動を組み立てています。特に休日や長期休暇は、時間をかけて取り組む活動や集団活動、外出プログラムを取り入れています。
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成しているか	○			個別支援計画に様々な視点を取り入れて作成しています。
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認しているか	○			毎日活動前にスタッフ全員で確認、共有しています。
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか	○			振り返りと支援方法の考察をスタッフ全員で行っています。子ども一人一人の記録を残し、情報共有しています。
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか	○			毎日一人一人の活動内容と支援内容について記録を残し、今後の支援方法を考える上で活用しています。
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断しているか	○			6ヶ月に1回行っています。

	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせる支援を行っているか	○		基本的な生活習慣の習得、社会力の発達に向けた取り組みのみならず、創作活動、交流行事など、多様な活動プログラムの機会を設けています。
関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画しているか	○		児童発達支援管理責任者やその子どもの担当者が出席しています。
	21	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか	○		送迎時や電話連絡、会議等の場で情報共有を行っています。
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えているか	○		医療面での配慮が必要な場合は、当センターの保健師を中心に主治医等と連携を図り、子どもへの対応について理解を深めるようにします。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか	○		同センターの児童発達支援利用児の場合は、担当スタッフと情報共有を行っています。その他必要に応じ、相談支援専門員を通じて就学前の通所施設や他事業所等との情報共有も行っています。
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか	○		相談支援専門員と連携し、本人や保護者の同意を得て、担当者会議に参加したり関係機関へ必要な情報提供を行ったりしています。
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けているか	○		研修等へ参加したり、必要に応じて連携を図ったりしています。
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障害のない子どもと活動する機会があるか	○		安芸太田町の子どもたちとの定期的な交流や中高生の職場体験実習、高校生・大学生のボランティアの受け入れ、地域との交流を行っています。
	27	（地域自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか	○		当センターの相談支援専門員が参加しています。その他、安佐南区の事業所連絡会の事務局を担っています。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか	○		送迎時や電話連絡等を通じて、子どもの様子や支援の方向性を共有するようにしています。保護者と顔を合わせる機会が少ない家庭については、行事の連絡などの機会を活用しながら、日頃の様子を情報共有するよう努めています。
	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っているか	○		ペアレントトレーニングとしては行っていませんが、茶話会、勉強会を定期的実施するとともに、懇談等様々な機会を通して対応力向上のための支援を行っています。集いの場には、より多くの保護者に参加いただけるような内容・日時設定を引き続き検討していきます。
保護者への説明責任	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか	○		契約時に契約書、重要事項説明書に基づき説明し、その後は必要に応じて説明しています。
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っているか	○		6ヶ月ごとの懇談のみならず、日頃より随時子育て等の悩みや相談に応じています。
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援しているか	○		保護者交流会、茶話会、勉強会など、保護者同士が繋がる場づくりを行っています。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか	○		苦情受付担当者、解決責任者、第三者委員について、契約時の説明ならびに掲示により周知しています。苦情があった場合は、解決に向けて迅速に対応しています。
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか	○		毎月の予定表で、活動の様子や今後の予定などをお伝えしています。
	35	個人情報に十分注意しているか	○		個人情報の取り扱いには十分注意することを法人全スタッフで確認し、意識の徹底に努めています。
	36	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか	○		子ども一人一人の特性に応じて配慮するとともに、保護者へもわかりやすい説明、情報伝達を心がけています。
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っているか	○		桜まつり、夏祭り、お餅つきなど、地域との交流を目的とした行事を開催しています。

非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知しているか	○			マニュアルはスタッフ間で共有しています。緊急時の対応については保護者に周知しています。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか	○			年3回、火災、地震、水害を想定した訓練を行い、毎月の通信で実施報告をしています。
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか	○			内部研修を実施しています。
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか	○			身体拘束の禁止について契約書に明記しています。
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか	○			年1回食物アレルギーについて保護者から聞き取るとともに、対応が必要な子どもは医師の指示書に基づく対応をしています。
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有しているか	○			発生したヒヤリハットについて、原因と対応を検討し記録に残しています。また全スタッフ間で報告、共有しています。